

兵庫教育大学における教員養成フラッグシップ大学 3年目評価結果について

令和7年2月18日

中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会
教員養成フラッグシップ大学推進委員会

1. 3年目評価の結果

S 評価：特筆すべき進捗状況にあり、構想を十分達成でき、今後も大いに発展することが期待できる。

2. 3年目評価における4大学に係る総論

- 教員養成フラッグシップ大学に指定され3年を迎える。4大学ともにそれぞれの計画に基づいて、状況や特長を活かした個性溢れる教員養成フラッグシップ大学構想をより一層明確にし、先導的・革新的な教員養成プログラムの開発・実装・評価・改善など、多種多様な取組を着実に実施して成果を出しつつある。
- また、令和6年12月、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会においては、教師人材の確保や養成段階で学ぶべき内容等の観点より教職課程の在り方の見直しの審議にあたって、特に学部における「現行の教職科目から減ずる科目」及び「先導的・革新的な教員養成プログラム（特に新設した授業科目の内容）」について、教員養成フラッグシップ4大学が発表を行った。
- 今後は、3年間の成果とそこから見えてきた課題の解決に取り組むとともに、4大学の取り組みを組み合わせた活用展開が期待される。そのため、引き続き、4大学間での横の連携を進めながら、教職課程の在り方等の検討に資するような成果発信が求められる。また、広くどの大学でも実装可能かという点からも、各連携大学等との議論や協議を行う機会も持っていたきたい。
- 現状に油断することなく、これまでの取組の効果検証等、更なるスピード感をもって、構想の実現と展開をはかられたい。その際、全国展開に資するような共通の

汎用的な部分と各フラッグシップ大学の個性的な部分の両者を追究するような、画一的ではない総合的な「教員養成フラッグシップ大学」を模索しつつ、減じる科目の考え方やカリキュラム開発等の実現プロセスを含め、展開発信していくことを期待したい。

3. 3年目評価における兵庫教育大学に係る総論

- 「自律した学習者を育てる教師の養成プログラム TEX」を、先導的・革新的教職科目の開発・改善、ステークホルダーとの連携・協働体制の構築、成果の全国展開という3つの柱で取り組んでおり、適切に KPI を設定して組織的・計画的に進めている。特に、スタンダード構造図、カリキュラムマップ、省察的な学びのサイクルの全体構成を明確にし、アジャイル型手法や評価指標の導入等により進捗を管理している点は特筆され、フラッグシップ大学の一つの形が確立されることを期待させる。
- 教員養成スタンダードの設定を軸としながらカリキュラム開発（減じる科目の決定も含め）、育成度合いの評価、他機関連携（FD 含む）、KPI 設定を緊密に関連付けており、その一貫性の高さが評価できる。
- 全国的な教員養成ネットワークのプラットフォーム構築について、報告会のみならず、新・教員養成スタンダードのパブコメを行うなど、双方向性ある活動が認められる。
- EdTech、教育データの利活用、STEAM 教育の科目開発に加え、学習観転換科目と初等教科授業デザイン科目を密接に関連させるためにコミュニティを立ち上げたり、論文化したりするなど、様々な点で質の向上にも取り組んでいる点は評価できる。
- 5年一貫カリキュラムの開発、奨学金返還免除の影響モニタリング、教職科目改編など、実効的な制度面での提案にも期待する。

東京学芸大学における教員養成フラッグシップ大学 3年目評価結果について

令和7年2月18日

中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会
教員養成フラッグシップ大学推進委員会

1. 3年目評価の結果

A 評価：順調に進んでおり、現行の取組を継続することによって構想を達成でき、今後も発展することが期待できる。

2. 3年目評価における4大学に係る総論

- 教員養成フラッグシップ大学に指定され3年を迎える。4大学ともにそれぞれの計画に基づいて、状況や特長を活かした個性溢れる教員養成フラッグシップ大学構想をより一層明確にし、先導的・革新的な教員養成プログラムの開発・実装・評価・改善など、多種多様な取組を着実に実施して成果を出しつつある。
- また、令和6年12月、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会においては、教師人材の確保や養成段階で学ぶべき内容等の観点より教職課程の在り方の見直しの審議にあたって、特に学部における「現行の教職科目から減ずる科目」及び「先導的・革新的な教員養成プログラム（特に新設した授業科目の内容）」について、教員養成フラッグシップ4大学が発表を行った。
- 今後は、3年間の成果とそこから見えてきた課題の解決に取り組むとともに、4大学の取り組みを組み合わせた活用展開が期待される。そのため、引き続き、4大学間での横の連携を進めながら、教職課程の在り方等の検討に資するような成果発信が求められる。また、広くどの大学でも実装可能かという点からも、各連携大学等との議論や協議を行う機会も持っていたきたい。
- 現状に油断することなく、これまでの取組の効果検証等、更なるスピード感をもって、構想の実現と展開をはかられたい。その際、全国展開に資するような共通の

汎用的な部分と各フラッグシップ大学の個性的な部分の両者を追究するような、画一的ではない総合的な「教員養成フラッグシップ大学」を模索しつつ、減じる科目の考え方やカリキュラム開発等の実現プロセスを含め、展開発信していくことを期待したい。

3. 3年目評価における東京学芸大学に係る総論

- フラッグシップ大学で目指す2つの人材像と5つの資質・能力を「自律的カリキュラムデザイン」という考え方・手法によって実現するという目標が計画的・組織的に取り組まれており、今後の成果が期待される。
- 明確な工程表に基づき着実に取組を進めており、教育創生科目を充実することで、学生の「自律型カリキュラムデザイン」による4年間の学修への主体的なプロセスが機能し、学生一人一人が目標とする資質能力を身に付けるプロセスが具体化されつつある。今後、幅広い学生を対象に、「身に付いている知識・能力」の「伸び」の計測及び自律型カリキュラムデザインの成果の測定といった検証が必要。教職専門性基準を通じた教員養成プログラムや特例5科目について、大学としての資質・能力の育成にふさわしい先進的・先導的な内容となっているかどうかの検証が求められる。
- 成果展開の拡大普及案については、「自律型カリキュラムデザイン」の理念・手法及び特例5科目の他大学の履修可能な仕組みの構築やテキスト等の展開にとどまらず、特例科目のテーマに応じて、大学外のさまざまな外部連携による開発を行っている点が評価でき、その仕組みは、他大学に展開すべき重要な要素であると思われる。

福井大学における教員養成フラッグシップ大学 3年目評価結果について

令和7年2月18日

中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会
教員養成フラッグシップ大学推進委員会

1. 3年目評価の結果

A 評価：順調に進んでおり、現行の取組を継続することによって構想を達成でき、今後も発展することが期待できる。

2. 3年目評価における4大学に係る総論

- 教員養成フラッグシップ大学に指定され3年を迎える。4大学ともにそれぞれの計画に基づいて、状況や特長を活かした個性溢れる教員養成フラッグシップ大学構想をより一層明確にし、先導的・革新的な教員養成プログラムの開発・実装・評価・改善など、多種多様な取組を着実に実施して成果を出しつつある。
- また、令和6年12月、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会においては、教師人材の確保や養成段階で学ぶべき内容等の観点より教職課程の在り方の見直しの審議にあたって、特に学部における「現行の教職科目から減ずる科目」及び「先導的・革新的な教員養成プログラム（特に新設した授業科目の内容）」について、教員養成フラッグシップ4大学が発表を行った。
- 今後は、3年間の成果とそこから見えてきた課題の解決に取り組むとともに、4大学の取り組みを組み合わせた活用展開が期待される。そのため、引き続き、4大学間での横の連携を進めながら、教職課程の在り方等の検討に資するような成果発信が求められる。また、広くどの大学でも実装可能かという点からも、各連携大学等との議論や協議を行う機会も持っていたきたい。
- 現状に油断することなく、これまでの取組の効果検証等、更なるスピード感をもって、構想の実現と展開をはかられたい。その際、全国展開に資するような共通の

汎用的な部分と各フラッグシップ大学の個性的な部分の両者を追究するような、画一的ではない総合的な「教員養成フラッグシップ大学」を模索しつつ、減じる科目の考え方やカリキュラム開発等の実現プロセスを含め、展開発信していくことを期待したい。

3. 3年目評価における福井大学に係る総論

- 教職課程の改革にとどまらない、専門職としての教師の生涯にわたる職能成長を支える機関の構築をめざし、とりわけ地域ニーズに応えた教員養成の仕組みや大学をハブとした世代・地域の交流促進による学習するコミュニティづくりは、着実に進められている。また、学部における8つの特例科目の異学年にまたがる科目開発と協働学習による理論・実践の接続・往還にも期待できる。ただし、各事業を全体としての関連性・相乗効果が生じるよう取り組むとともに、先導的・革新的な教職課程を構築することを意識されたい。
- 総合大学として、教育学部以外の学部との連携の成否は、全国の総合大学の教育学部への展開に必要な有効な一例となり得る。他学部との連携等全学としての取組の明確化を引き続き実施検討いただきたい。
- 福井大学教育学部フラッグシップカリキュラム「リエゾン型学びのネットワーク」については、革新性・先導性をより一層明確にしつつ多角的な検証を求めたい。また、学部生及び大学院生の縦の連携を高める強みを可視化するとともに、他大学関係者との共有、実践の成果検証の強化などの横展開可能なエッセンスの提案を期待する。

大阪教育大学における教員養成フラッグシップ大学 3年目評価結果について

令和7年2月18日

中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会
教員養成フラッグシップ大学推進委員会

1. 3年目評価の結果

A 評価：順調に進んでおり、現行の取組を継続することによって構想を達成でき、今後も発展することが期待できる。

2. 3年目評価における4大学に係る総論

- 教員養成フラッグシップ大学に指定され3年を迎える。4大学ともにそれぞれの計画に基づいて、状況や特長を活かした個性溢れる教員養成フラッグシップ大学構想をより一層明確にし、先導的・革新的な教員養成プログラムの開発・実装・評価・改善など、多種多様な取組を着実に実施して成果を出しつつある。
- また、令和6年12月、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会においては、教師人材の確保や養成段階で学ぶべき内容等の観点より教職課程の在り方の見直しの審議にあたって、特に学部における「現行の教職科目から減ずる科目」及び「先導的・革新的な教員養成プログラム（特に新設した授業科目の内容）」について、教員養成フラッグシップ4大学が発表を行った。
- 今後は、3年間の成果とそこから見えてきた課題の解決に取り組むとともに、4大学の取り組みを組み合わせた活用展開が期待される。そのため、引き続き、4大学間での横の連携を進めながら、教職課程の在り方等の検討に資するような成果発信が求められる。また、広くどの大学でも実装可能かという点からも、各連携大学等との議論や協議を行う機会も持っていたきたい。
- 現状に油断することなく、これまでの取組の効果検証等、更なるスピード感をもって、構想の実現と展開をはかられたい。その際、全国展開に資するような共通の

汎用的な部分と各フラッグシップ大学の個性的な部分の両者を追究するような、画一的ではない総合的な「教員養成フラッグシップ大学」を模索しつつ、減じる科目の考え方やカリキュラム開発等の実現プロセスを含め、展開発信していくことを期待したい。

3. 3年目評価における大阪教育大学に係る総論

- フラッグシップ構想により育成する3つの力と6つのディプロマポリシーに対応した「ダイバーシティの観点に基づく三層省察型カリキュラム」については、新規の魅力的な科目群のみならず、それらが有機的に接続し、互いに高めるような構造になったことが評価できる。また、フラッグシップ科目について、実際の学生の評価とともにカリキュラム開発の展開がなされている点、減じる科目との比較検討がしっかりなされている点も評価できる。引き続き革新性・先導性をより一層明確にしつつ多角的な検証を期待したい。
- みらい教育共創館を拠点とした産官学連携研究ネットワークをベースとして、「問い続け、寄り添える教師」を育てる教職プログラムを開発、展開する構想が明確になり、多様な取組も具体化されて着実に進みつつある。
- OZONE-EDU など、現場ニーズへの対応のみならず、フラッグシップ大学の理念を反映させた取組が行われている。様々な先進的でデジタル技術の活用に関する取組が見られる点は評価できる。
- 他大学への普及拡大の必要性から大学教員の学習観・授業観の転換を促すFDシステムの構築と教育版URA人材の養成には大いに期待したい。
- 「ダイバーシティ」「三層省察型カリキュラム」「みらい教育共創館」など各種の取組・要素が、全体としてどういう関連性・相乗効果があり、教育に貢献しているのかという点が熟慮・整理されると良い。

教員養成フラッグシップ大学3年目評価実施要領

令和6年2月

教員養成フラッグシップ大学推進委員会

「教員養成フラッグシップ大学」の3年目評価は、この実施要領により行うものとする。

1. 3年目評価の目的

3年目評価は、教員養成フラッグシップ大学に指定された大学（以下「大学」という。）の構想・計画の進捗状況や継続性・発展性等について評価を行い、その結果を、大学に示し適切な助言を行うとともに、評価結果に基づいて大学の計画の見直しの検討に資することを目的とする。

2. 3年目評価の対象

3年目10月時点（令和6年10月）における進捗状況等について評価を実施する。

3. 3年目評価の実施方法

各大学から提出された報告書等を基に、書面評価により実施する。

委員会は、書面評価に基づき合議評価を行い、評価結果（案）や助言等をまとめる。

大学に対し、事前に評価結果（案）を開示し、当該評価結果（案）において、「C」又は「D」と評価された大学には、説明聴取の機会を与える。3年目評価結果が「C」又は「D」となった大学は、計画の見直し案を委員会に提出し、委員会は、指定継続についてあらためて評価を行う。

【書面報告】

- (1) 教員養成フラッグシップ大学としての成果目標と今後の展望
- (2) カリキュラムの全体構成
- (3) 先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発の進捗状況
- (4) 現行の教職科目から減ずる科目の内容・検討状況、その他教職科目の見直しの進捗状況
- (5) 全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開の進捗状況
- (6) 工程表に基づく取組の進捗状況
- (7) 取組を中止する等の申請時からの重大な変更点及びその理由、代替策
- (8) 教員養成フラッグシップ大学推進委員会において出された所見・助言等への対応状況
- (9) その他必要な事項

4. 3年目評価の基準

評価は、以下の観点を踏まえて総合的に判断し、評価基準に照らして、評価結果を「S」、「A」、「B」、「C」、「D」の5段階の絶対評価により区分することとする。

【評価の観点】

- ①当初の構想・計画に沿って、着実に事業が進捗し、成果（効果）が上がっているか。
- ②進捗状況から見た現状・自己分析を通じた課題の把握と適切な対策が講じられているか。

区分	評価基準
S	特筆すべき進捗状況にあり、構想を十分達成でき、今後も大いに発展することが期待できる。
A	順調に進んでおり、現行の努力を継続することによって構想を達成でき、今後も発展することが期待できる。
B	おおむね順調に進んでいるが、構想を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
C	やや遅れており、構想を達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、構想の適切な変更が必要である。
D	現在までの進捗状況等に鑑み、構想を達成できる見通し・発展性がないと思われるので、指定の取り消しが必要である。

5. 3年目評価スケジュール（予定）

11月 【大学】 書面報告提出

1月～2月 【推進委員会】 3年目評価結果（案）の決定

3年目評価結果（案）を大学に開示

（上記の評価が「C」又は「D」の場合は説明聴取の機会を与える）

【推進委員会】 3年目評価結果の決定、大学に通知

【教員養成部会】 3年目評価結果報告